



2019年2月 南アフリカ新聞第19号

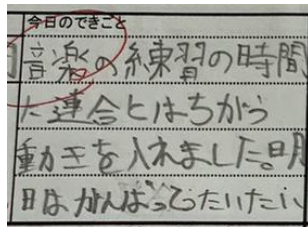
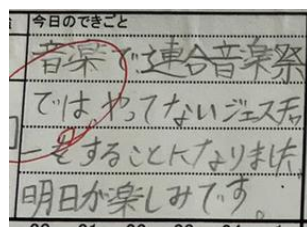
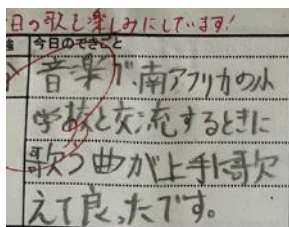
SABONA

鈴木 壮太

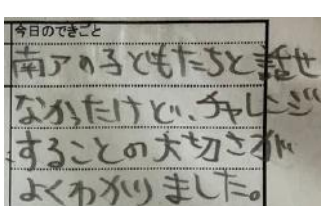
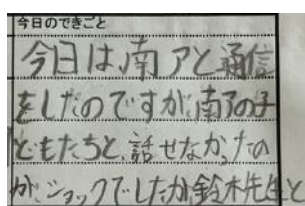
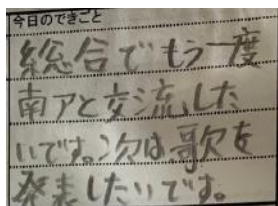
南アの学校で活動していると、子どもたちに日本についてよく聞かれます。「日本と中国は同じだね?」とか「日本にはどんな動物がいるの?」などなど。ということで、南アと日本の学校をテレビ電話で繋いで、お互いに交流してみることにしました。

日本の学校との交流

以前から日本と繋いでみたいと思っていたので、ようやくそれを実行に移せて嬉しく思います。今回は、高崎市立下室田小学校(群馬県)の6年生のクラスに協力してもらいました。



下室田小の子どもたちは、南アに歌を届けるために歌の練習をしたり、新しい振り付けを考えたりしてくれました。

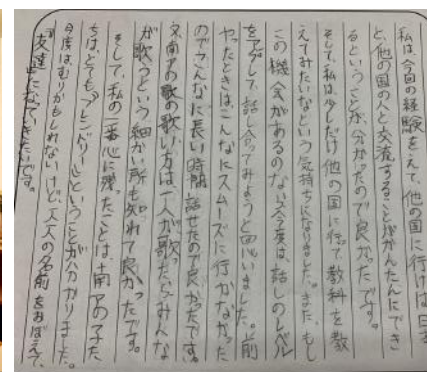


しかし南アの電波が弱く交流できず。次回に持ち越し。悔しい。

そして1週間後…ついにテレビ電話で交流することに成功!



- ① 日本の子どもたちがスワジ語で挨拶をすると、南アの子どもたちはとても嬉しそう。スワジ語の発音◎
- ② 日本の歌を聴く南アの子もたち。初めて聴くメロディを楽しんでいました。同年代の子がピアノを上手に弾くのを見て歓喜。



- ③ お互いに質問し合っている様子。(好きな教科、科目の種類、何を食べるのか、好きな食べ物、寝る時間、最近ハマっていること、など。)
- ④ 交流後の感想。何より子どもたちの海外に対する興味、関心に繋がって良かったです。現地や下室田小の皆さんのご協力があり、このような機会を設けることができました。また、ぜひ日本と繋げることができるといいなと思います。

最後にひとこと：ありがとう！下室田小6年生のみんな！そして小林先生！